

# 市長行政報告

(その3)

(令和2年第1回多摩市議会定例会)

新型コロナウイルス感染症へのこれまでの対応につきましては、3月16日の市長行政報告（その2）でご報告をさせていただきましたがそれ以降の多摩市の対応等について、ご報告申し上げます。

3月11日にWHO（世界保健機関）がパンデミック宣言を行ってから2週間あまりが経ちました。世界各国では外出禁止令を含む非常事態宣言が相次いで出されていることはご存じのとおりです。WHOのテドロス事務局長は「都市封鎖で対策徹底を」と危機感を鮮明にしています。日本においても、専門家会議は「引き続き持ちこたえている」としながらもオーバーシ

ュート（爆発的患者急増）への警戒感を表明しました。

本市でも、この間、新型コロナウイルス感染症対策本部で対応を検討してまいりました。

経済への影響ももちろん懸念しながらも、長期戦を見据え、いかに市民の皆さんの健康を守っていくか。一人ひとりが、「正當にこわがり」ながら、活動することで、免疫力を低下させないようすることが重要です。

そうした観点から、一昨日の対策本部では「換気の悪い密閉空間」、「多くの人の密集」、「近距離での会話や発声」という「3つの条件の重なり」を徹底的に回避することを前提に、市民の皆さんに活動の場を提供するため、公共施設の

貸室利用を順次再開していくことを決定しましたが、このあと述べるような情勢変化があったため、あらためて公共施設は原則閉館することといたしました。

ご存じのとおり、昨夜、都内で新たに41名の感染が判明し、小池都知事は記者会見で「今が重要な局面」との認識を示し、この週末を含めた不要不急の外出の自粛要請を行いました。あわせて都知事からは「3つの密」という言葉で、感染リスクを下げる行動の呼びかけや、若者に限らず一人ひとりが適切な行動をとってほしい旨の呼びかけもされていましたが、「正當にこわがる」という点で、私も同様の考えです。

現時点では、市内で感染者が出たという報は

受けていませんが、首都・東京にある自治体として「感染拡大傾向にある地域」との認識に立って、国や東京都とも足並みをそろえて、柔軟かつ適切に対応を図ってまいります。

なお、昨日の都知事の会見が行われていた時刻、本市では、南多摩保健所、多摩南部地域病院と日本医科大学多摩永山病院の2病院を含めた多摩市医師会と市による医療連携会議を立ち上げ、会合を開いていました。

都知事の会見の内容も適宜共有しながらの会議でしたが、万が一、感染者が爆発的に増加した場合に、地域で医療崩壊を起こさないための対応等について意見交換を行い、今後の連携について確認しています。

政府でも新型インフルエンザ対策特別措置法に基づく政府対策本部が設置され、本日初会合が開かれるとのことから、今後、緊急の対応等が求められることも予測されます。今議会でも大胆な日程変更など、市民の命と安全・安心を守るための重大な決定をしていただきました。今後においても臨時議会の招集、さらには専決処分等に対応せざるを得ない状況もあるかもしれませんが、その時々、議会の皆さんとも協議を重ね、連携を図りながら、対応していく所存ですので、ご理解・ご協力のほどよろしく願いいたします。

以上をご報告申し上げ、市長行政報告（その

3) と致します。

(令和2年第1回多摩市議会定例会)